

厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
『**薬剤師の職能のための薬学的知見に基づく
継続的な指導等の方策についての調査研究**』
(令和2年度～4年度)

研究代表者 東京薬科大学

益山光一

令和4年2月14日

服薬フォローアップの推進のための方策（令和2～4年度の研究班）

- 改正薬機法等により、薬剤師は調剤時のみならず、服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導（服薬フォローアップ）を行うこととされた。
 - 質の高い薬学管理を行うために、研究班（注1）において
 - ①フォローアップ事例を収集し、フォローアップの手引き（注2）の改訂
 - ②フォローアップによる効果の検証
 等を進めている。
- （注1）薬剤師の職能のための薬学的知見に基づく継続的な指導等の方策についての調査研究（令和2～4年度）（研究代表者 東京薬科大学 教授 益山 光一）
- （注2）薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き（日本薬剤師会作成）

研究班における検討スケジュール（フォローアップ関係）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①フォローアップ事例の収集、フォローアップ手引きの改定	フォローアップに関する事例等の情報収集 薬局での事例収集、論文調査、厚労省の予算事業の調査等		手引きの改訂を検討
②フォローアップによる効果の検証	フォローアップを行うことが効果的な事例の検討 （小児、ハイリスク薬等）		フォローアップ効果の検証（介入研究）

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金公募要項(二次)

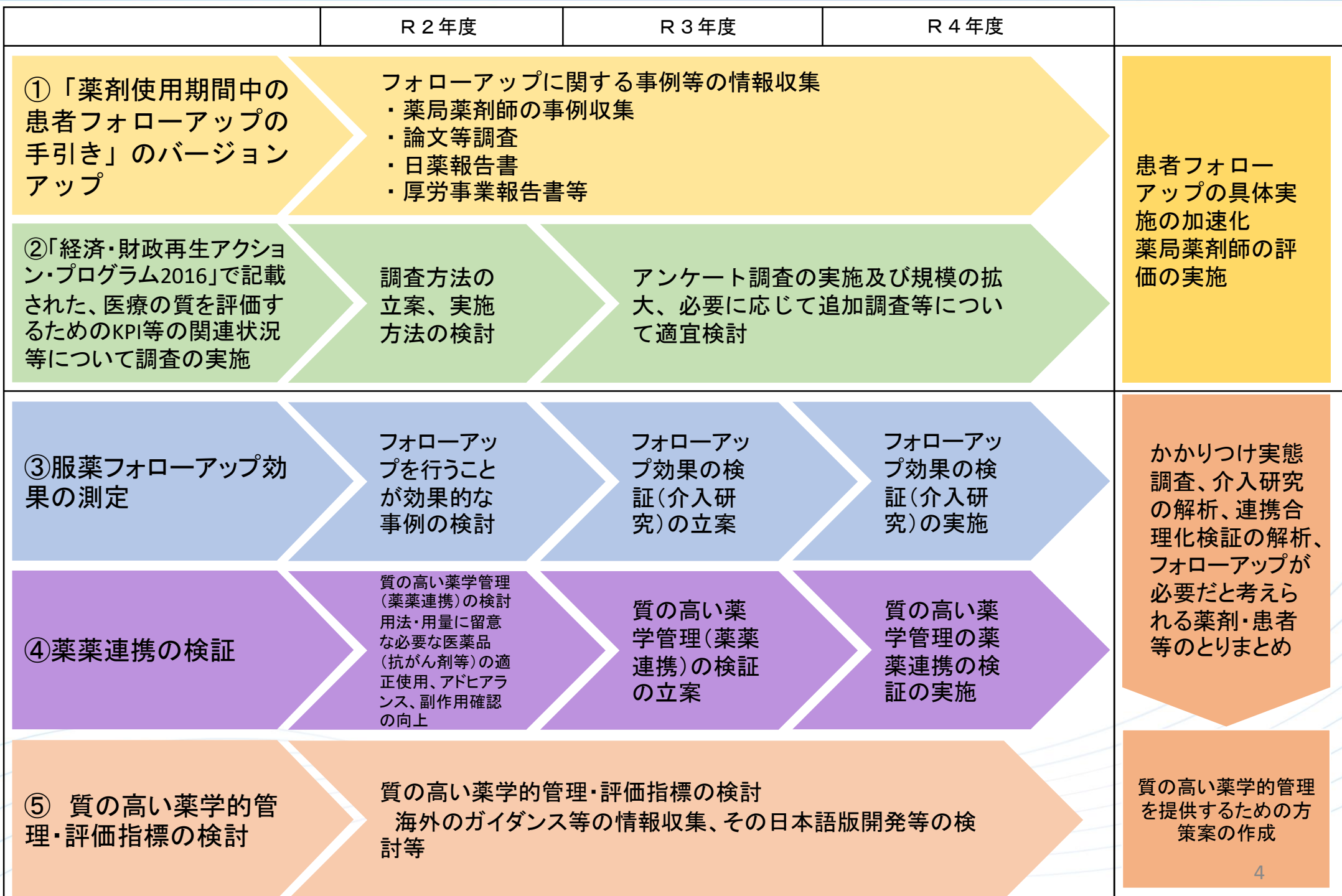
目標

2019年12月に公布された薬機法等改正法では、薬剤師が調剤時のみならず、患者の薬剤の服用期間を通じて、服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導を行うことが求められている。そのため、このような取組を効果的に実施し、患者に対して、安全で有効な薬物療法が提供できるよう、薬剤師の業務の実態を把握するための調査を行うとともに、今後、質の高い薬学的管理を患者に提供するための方策等について調査を行う。

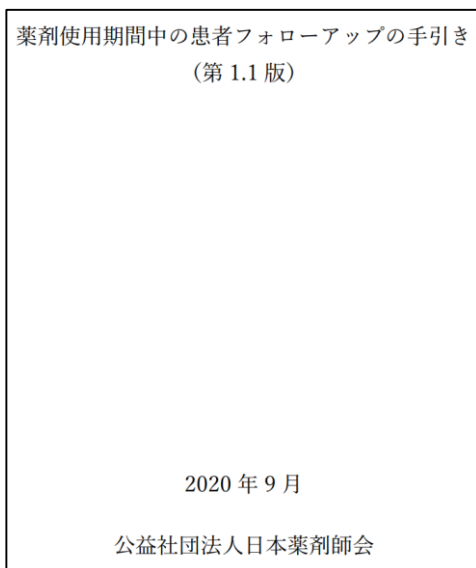
求められる成果

- ・薬局及び医療機関で現在実施されている、患者に対する服用期間を通じた継続的フォローアップの事例収集
- ・薬剤師・薬局や患者を対象とした、かかりつけ薬剤師・薬局の業務に関する実態調査(一部の地域ではなく、全国を対象として調査を行うこと)
- ・服薬状況の継続的なフォローアップを行うことが効果的な事例の考え方(薬剤の種類、患者の状況、その他の要件)のまとめ
- ・薬剤師の職能を発揮し、質の高い薬学的管理を提供するための方策

当初の全体計画



薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き(第1.1版)



薬剤使用期間中の患者フォローアップとは、患者の来局時だけでなく、調剤した薬剤の使用期間中に適切な形で薬剤の使用状況、併用薬（一般用医薬品等を含む）、患者の状態や生活環境等を把握するとともに、薬学的知見に基づく分析・評価から必要な対応を実施することにより、薬剤の使用期間中を通じて、患者が安心できる最適な薬物療法を提供する薬剤師の行動を指す。

調剤業務委員会では以下に記載したとおり、標準的な患者フォローアップの方法を示しているが、それを貫く基本的考え方は、

- ① 個々の患者の特性
- ② 罹患している疾病の特性
- ③ 当該使用薬剤の特性

に合わせて、適切に患者フォローアップを行うことである。

出典：薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き(第1.1版)

目次

1. はじめに	3
2. 本手引きについて.....	4
3. 薬剤使用期間中の患者フォローアップとそれを行う上での基本的考え方.....	5
4. 薬剤使用期間中の患者フォローアップの流れ.....	6
(1) 初回来局時.....	6
(2) 薬剤交付から次回来局までのフォローアップ	7
(3) 次回来局時.....	7
5. 薬剤交付から次回来局までのフォローアップの実践.....	8
(1)次回来局までのフォローアップの検討	8
(2) <u>患者等への確認のタイミング</u>	9
(3) <u>患者等への確認方法</u>	10
(4) <u>患者等への確認事項</u>	10
(5) <u>分析と評価</u>	11
(6) <u>結果と対応</u>	11
(7) <u>記録</u>	12
(8)その他	13
6. 処方箋医薬品以外の医療用医薬品、薬局製造販売医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品を販売する場合の販売後フォローアップの考え方	14
7. 薬剤使用期間中の患者フォローアップに関連する法令	16
<薬剤師法(抄)>	16
<薬剤師法施行規則(抄)>	17
<薬機法(抄)>	18
<薬機法施行規則(抄)>	20
8. 改版履歴	27

➤赤線部分を入れ込みフォーマット案を作成した

フォローアップ報告書フォーマット(案)

事例要点	
患者情報	
性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
年齢	歳
疾病に関する情報(既往歴、合併症及び他科受診において加療中の疾病に関するものも含む)	
かかりつけ薬剤師指導料(調剤報酬における算定)の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
アレルギー歴	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
副作用歴	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
薬学的管理に必要な患者の生活像	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
その他(検査データ等)	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
併用薬(要指導医薬品、一般用医薬品、医薬部外品及び健康食品)	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
相互作用が認められる飲食物の摂取状況	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし
服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良(残薬 <input type="checkbox"/> あり:理由) <input type="checkbox"/> なし
来局頻度	<input type="checkbox"/> () か月毎 <input type="checkbox"/> () 週間毎 <input type="checkbox"/> 単回 <input type="checkbox"/> その他()
フォローアップ実施開始日	年 月
	<input type="checkbox"/> 初めてフォローアップをした日 <input type="checkbox"/> 新たにフォローアップを再開した日 <input type="checkbox"/> その他()
フォローアップ期間	<input type="checkbox"/> () 年 <input type="checkbox"/> () か月 <input type="checkbox"/> () 週間 <input type="checkbox"/> その他()
処方内容	
フォローアップの要因となった医薬品名と用法用量、処方日数	
その他の医薬品名と用法用量、処方日数(当該薬局で把握されている処方薬全てを記載してください)	
フォローアップの重点事項・タイミング	
フォローアップの重点事項(以下の4つのいずれかの観点から)	
①個々の患者の特性	
②罹患している疾病の特性	
③当該使用薬剤の特性	
④その他)	
患者等への確認のタイミング(なぜそのタイミングにしたのか、使用薬剤の特性や患者像から判断した理由)	
患者等への確認	
患者等への確認方法	<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 来局時 <input type="checkbox"/> (患者宅への) 訪問 <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> アプリ <input type="checkbox"/> その他 ()
患者等への確認事項	<input type="checkbox"/> 薬剤等の服薬状況(残薬の状況、服用しづらくないか、服用において不便なことはないか等)
	<input type="checkbox"/> 副作用発現の有無
	<input type="checkbox"/> 使用中の薬剤の効果
	<input type="checkbox"/> 薬剤使用中の体調の変化
	<input type="checkbox"/> 患者基本情報の変化
	<input type="checkbox"/> 併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響
	<input type="checkbox"/> 生活機能への影響
	<input type="checkbox"/> 生活の特性の変化
<input type="checkbox"/> 使用中の薬剤に対する意識(先入観、不安感等)	
<input type="checkbox"/> その他 ()	

分析と評価		
分析	フォローアップ前の体調	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	フォローアップ前の副作用	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他
	フォローアップ前の服薬状況	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	フォローアップ前の使用薬剤の効果	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他 ()
	他職種連携への貢献	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
フォローアップを実施した際の患者の状況		
評価		
結果と対応		
患者の状況を確認して薬剤師がとった行動		
結果と対応		
フォローアップ後の患者の状況等	【フォローアップ後の患者の状況について】	
	処方変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無
	フォローアップ後の体調	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の副作用	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の服薬状況	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の使用薬剤の効果	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の患者基本情報の変化	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の併用薬や食品・嗜好品との相互作用による影響	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の生活特性・機能への影響	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
	フォローアップ後の使用医薬品に対する意識(先入観、不安感等)	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 悪化()
他職種連携への貢献	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
記録		
記録の工夫した点		
トレーシングレポート提出		
トレーシングレポート提出	<input type="checkbox"/> 提出した(内容; 結果;) <input type="checkbox"/> 未提出 <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他		
報告書記入日		
年 月 日		

フォローアップ事例収集(令和2年度は11例、令和3年度は30例 計41例)

令和2年度 収集事例											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
事例要約	食事により影響を受ける薬剤の服薬時間確認と副作用の軽減	インスリン自己注射の手技確認と介入による薬剤量減量	出荷調整により変更になった薬剤による副作用発現管理	ステロイド自己判断による中断、介入による処方薬剤減	ベンゾジアゼピン(BZ)系薬服用が原因と思われる転倒骨折と介入による薬剤量減量	外来がん化学療法患者の副作用Grade評価、処方提案、介入による副作用軽減	吸入指導により吸入困難と判明し剤形変更(ドライパウダー→エアゾール)	薬の自己管理不良より判明した認知症	薬嫌いの児に服薬の工夫を指導し服薬コンプライアンス向上	飲み忘れに服薬継続の意識づけをしたことにより服薬コンプライアンス改善	出血による継続服用に対する不安、服薬コンプライアンス低下を生じないようフォロー
患者基本情報(年齢)	70代	80代	70代	60代	80代	50代	80代	80代	0-9歳	0-9歳	0-9歳
患者基本情報(性別)	男性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	男性	男性	女性

令和3年度収集事例																				
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
事例要約	インスリン注による頻繁な低血糖症状のフォローアップおよびインスリン注の処方中止	患者希望による減薬と提案後減薬になりその後フォローアップ	アンペック坐薬の使用法がわからず使用できていなかった事例	服薬への不安を確認したため、早期のフォローアップが必要だと判断した事例	レスキュー使用状況の聞き取りとオピオイド投与量の提案	抗がん剤の時間指定の飲み方に不安があった事例	味覚異常の訴えに対し、亜鉛含有製剤の処方提案し味覚障害の症状が軽減	クエチアピン25mgで血圧低下の副作用が出現した事例	外来がん化学療法での口内炎、吐き気の副作用に対し処方提案、副作用変化の確認	ジオトリフ服用患者の皮膚障害と下痢のフォローアップ	新規薬副作用発現の不安感に対する薬学的・精神的介入	服薬継続の意識づけをしたことによる服薬アドバイスの改善	抗精神病薬服用中妊娠したことへのサポート	ベストロン点眼用の溶解が困難な事例	インスリン製剤(注射剤)が初めて処方された患者へのフォローアップ	外来がん化学療法患者へのフォローアップ	アドヒアランス不良による服薬管理困難な事例	トアラセット用量変更後の副作用変化の確認	薬剤変更後のタイミングで副作用が出現した事例	疼痛緩和状況、副作用状況をこまめにフォローアップし、オピオイド鎮痛薬の増量提案した事例
患者基本情報(年齢)	80代	87歳	70代	40代	40代	60代	80代	20代	70代	70代	80代	70代	30代	80代	60代	50代	70代	80代	70代	70代
患者基本情報(性別)	女性	男性	男性	女性	男性	男性	女性	男性	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	男性	女性	女性

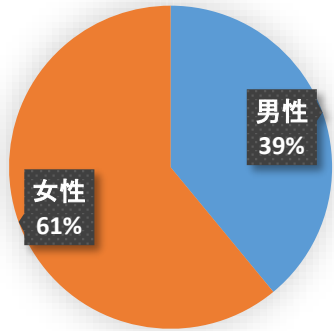
令和3年度収集事例										
	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
事例要約	退院時処方に対するフォローアップ(薬薬連携)	退院後、継続薬剤の副作用により減量した事例	高血圧治療薬削除になったことで不安感、体調変化をフォローした事例	むずむず脚で不眠の患者へのレグナイト錠のフォローアップ	吸入薬操作不良により薬剤効果が得られていなかった事例	複数のサプリメントを過剰に服用していた患者のサプリメントの整理	新規薬剤の副作用の不安へのフォロー	初の糖尿病治療薬開始による副作用発現等の確認のためのフォローアップ	血圧治療薬を正しい用法用量で服用していなかった患者のフォロー	幼児に初めて坐薬・浣腸を使用する不安フォローと使用確認
患者基本情報(年齢)	70代	80代	40代	60代	80代	80代	40代	80代	70代	0-9歳
患者基本情報(性別)	男性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	女性

フォローアップ好事例の一部(41事例中)

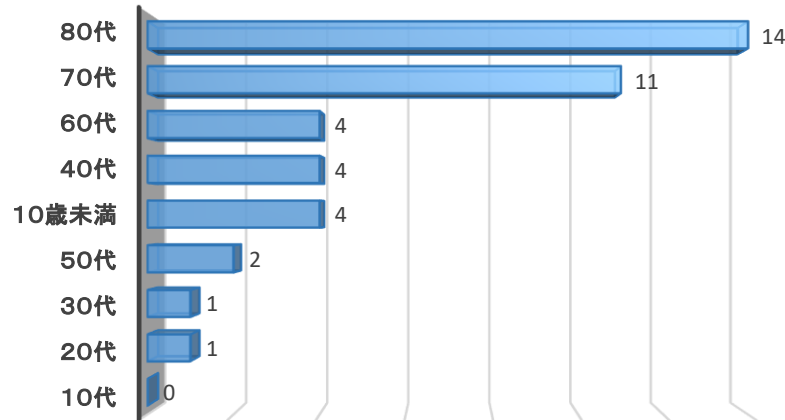
事例	どのような患者に対して	フォローアップの理由	フォローアップの方法	フォローアップの結果
①	70代男性 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 経口抗がん剤ヴオトリエント錠(1日1回800mgを食事の1時間以上前又は食後2時間以降に経口投与)服用中	実際の食事時間とヴオトリエント錠服用時間を確認したところ、ヴオトリエント錠服用後30~40分で食事を取っていることが判明。そのため副作用の下痢が出ていると考えられた。	ヴオトリエント錠服用後、1時間以上あけて食事をする必要があることを再度説明し、2週間後に適正に服用できているかフォローアップの電話をかけ確認した。	正しいタイミングで服用するようになり、副作用も改善された。トレーシングレポートにて医師に情報提供した。
⑮	40代女性 うつ、片頭痛、機能性Fディスぺプシア(FD)、過敏性腸症候群(IBS)	フルボキサミンが新規処方された。患者は薬を飲むことに不安を感じていた。不安によるノンコンプライアンス。	来局後3日目に電話。1日分しか服用していない。副作用の消化器症状自覚、服薬の必要性、コロナワクチンへの影響の不安あり。患者の訴え、考えを傾聴。主治医と二人三脚でゆっくり治療することを提案。	フルボキサミンを継続服用するよう指導し、主治医にも再診時に相談することとなった。ワクチンとは問題ないことを伝え安心してもらった。
⑳	70代女性 高血圧症、骨粗鬆症	血圧がなかなか下がらない。原因を探ると、飲み忘れが多く、血圧が高いと思ったときだけ服用していた。	服用の必要性を再指導。1週間毎に患者宅を訪問し、服用状況をフォローアップし、適正に服用していることを確認した。	服薬の必要性を理解していただきアドヒアランス改善。血圧も安定するようになった。
㉓	70代男性 肝細胞癌(坐骨転移、微小肺転移の疑い) 退院後は抗がん剤は入院先病院で、抗がん剤支持療法や疼痛管理は在宅医、当薬局で対応	在宅療養(特に支持療法と疼痛管理)を担う薬局として、服用状況や疼痛コントロール、薬剤効果、抗がん剤の副作用などを退院後早め確認・報告する必要ありと判断。	退院1週間後患者宅訪問。在宅療養中に発熱、口内炎、胃部不快感、便秘等が発生。発生した症状や状態、薬剤服用状況及び在宅医と協議した疼痛管理の方針(痛みが完全に消失すると体動が増え骨折部の負担で再発の可能性があるため疼痛はある程度でとどめる)も医療関係者で情報共有した。	疼痛→レスキュー対応 オキノーム散による便秘発生→ラグノス適宜服用から1日3回に増量 発熱発生→レボフロキサシンとカロナール処方追加 口内炎発生→軟膏塗布にて経過観察 胃酸過多、逆流傾向→タケキャブ服用開始 その後もフォローアップ継続中。
㉗	80代女性 甲状腺機能亢進症、不整脈、胃炎、高脂血症、腰痛、ドライアイ	処方薬(7種類)以外にもサプリメント(8種類)利用中。服薬する錠数の話で齟齬があり、併用サプリメントを把握する必要あり。同じ働きのあるものを多数服用し、ビタミンなど過剰に摂取している。	来局時にサプリメントに飲み合わせがあることを説明。トレーシングレポートにて処方医に報告。	サプリメントは1種類のみ利用することとなった。今後も策理メントが増えていか医療機関と協力しながら確認していくこととなった。

事例内容(41事例)

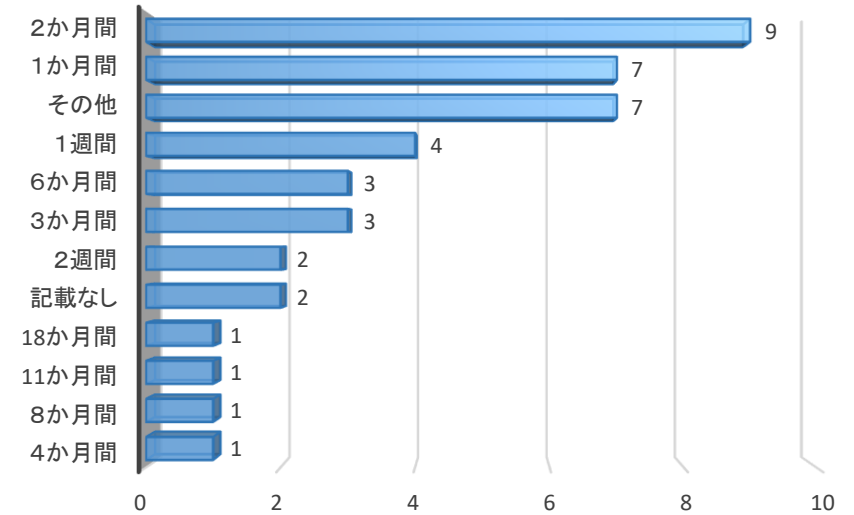
患者の性別(n=41)



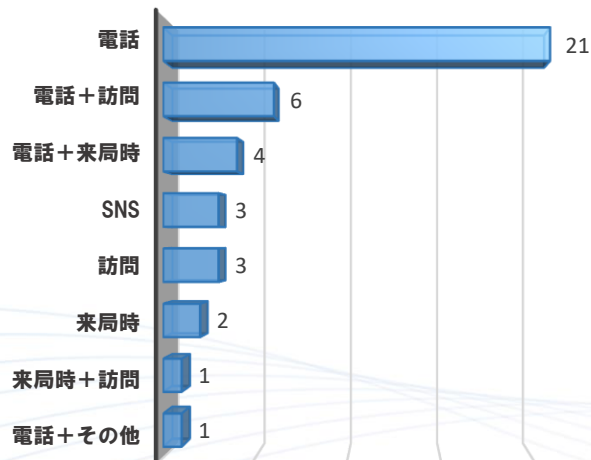
患者の年代(n=41)



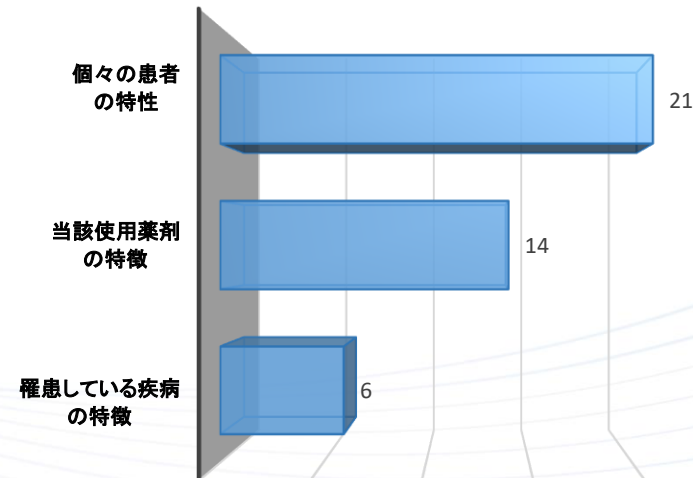
フォローアップ期間(n=41)



フォローアップ方法(n=41)

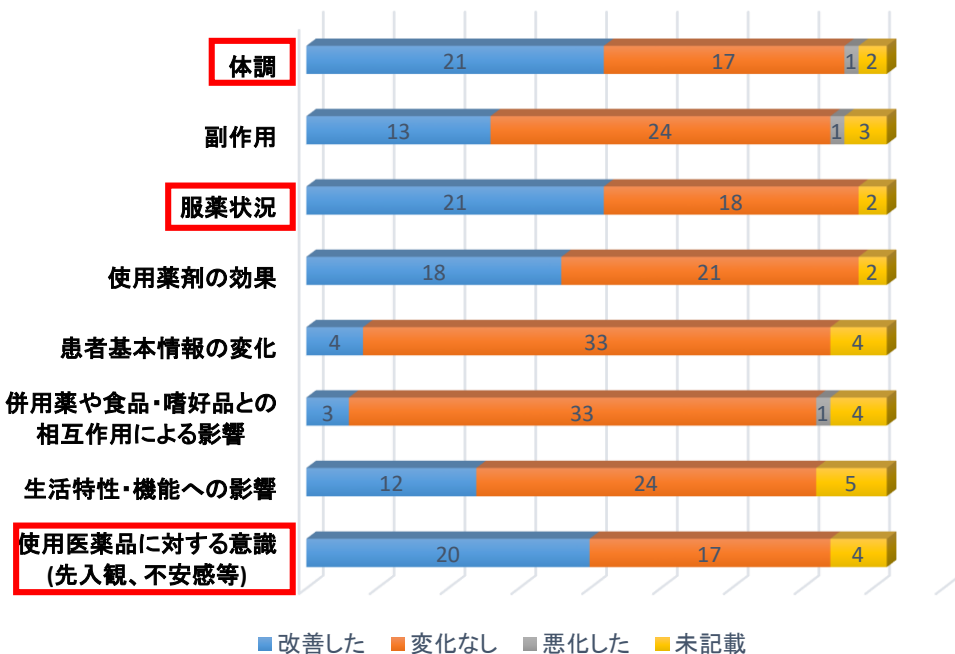


フォローアップ理由(n=41)



事例内容(41事例)

フォローアップ後の患者の状況変化(n=41)



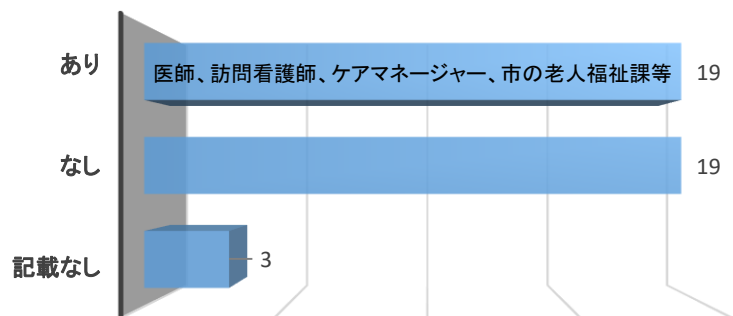
事例No.	体調の変化	
	フォローアップ前	フォローアップ後
事例⑦	吸入力が低下しぜんそく吸入薬の効果が得られていない。吸入しやすいエアゾールへ処方変更提案。	処方変更となり、薬も吸入できるようになり症状改善。
事例⑫	インスリン注による低血糖出現。血糖値モニタリング、低血糖回数測定等フォローアップし中止の提案。	インスリン中止。中止後も血糖値が安定していることをフォローアップ。
事例⑭	癌患者に処方された坐薬使用のタイミングがわからず未使用。再度説明し、訪問医、訪問看護師と情報共有。	使用できたことで患者状態はとても良くなった。

事例No.	服薬状況の変化	
	フォローアップ前	フォローアップ後
事例②	視力のない患者。インスリン自己注射手技不良。正しい打ち方指導とフォローアップ実施。	手技良好になり、薬剤の効果も得られるようになり、インスリン処方量減量につながった。
事例③	軽度認知症。来局頻繁で処方薬乱用の可能性あり。市の老人福祉課へ相談。	居宅療養管理指導となり、大量の残薬整理、一包化対応し服薬状況改善した。
事例⑳	残薬数がバラバラで、色が似ている錠剤を間違えて服用している可能性あり。	残薬数確認し、自己管理困難と判断。一包化してフォローアップ。服薬状況は改善した。

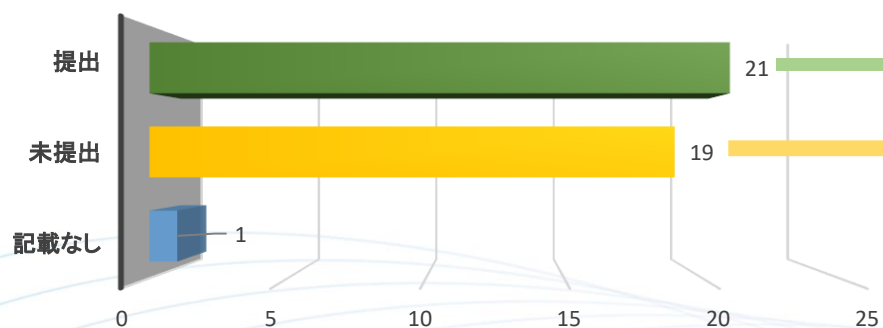
事例No.	使用医薬品に対する意識(先入観、不安感等)の変化	
	フォローアップ前	フォローアップ後
事例④	ステロイドを自己判断で中止していた。	服用の必要性、ステロイド離脱症状を説明し、フォローアップ。服薬の必要性を理解し服薬継続につながった。
事例⑮	新規に処方された精神病治療薬に対して不安が大きい。コロナワクチンとの併用も気にしている。	患者の不安や治療に対する思いを傾聴し、寄り添いながら服薬の必要性、コロナワクチンとの併用について説明。理解してもらい服薬継続できている。
事例⑳	血圧良好で高血圧治療薬の服用が中止になり、やめてもいいのか不安を抱いている。	中止になった後の血圧モニタリングや精神面でもフォローアップし、不安は解消した。

事例内容(41事例)

他職種連携への貢献(n=41)



トレーシングレポートの提出(n=41)



トレーシングレポート提出後	件数	具体内容
処方量変更	5	①インスリン減量②ロラゼパム減量 ③ナルサス増量④クエチアピン減量 ⑤グラクティブ減量
記載なし	4	
処方削除	3	①抗菌薬・ST合剤②インスリン ③サプリメント
処方追加	3	①ロペラミド・ミヤBM②ポラプレジン クOD③ヒルドイドソフト軟膏
特に返答なし	3	
処方変更	2	①アドエア→フルティフォーム ②クエチアピン→ロラゼパム
残薬調節実施処方箋発行	1	

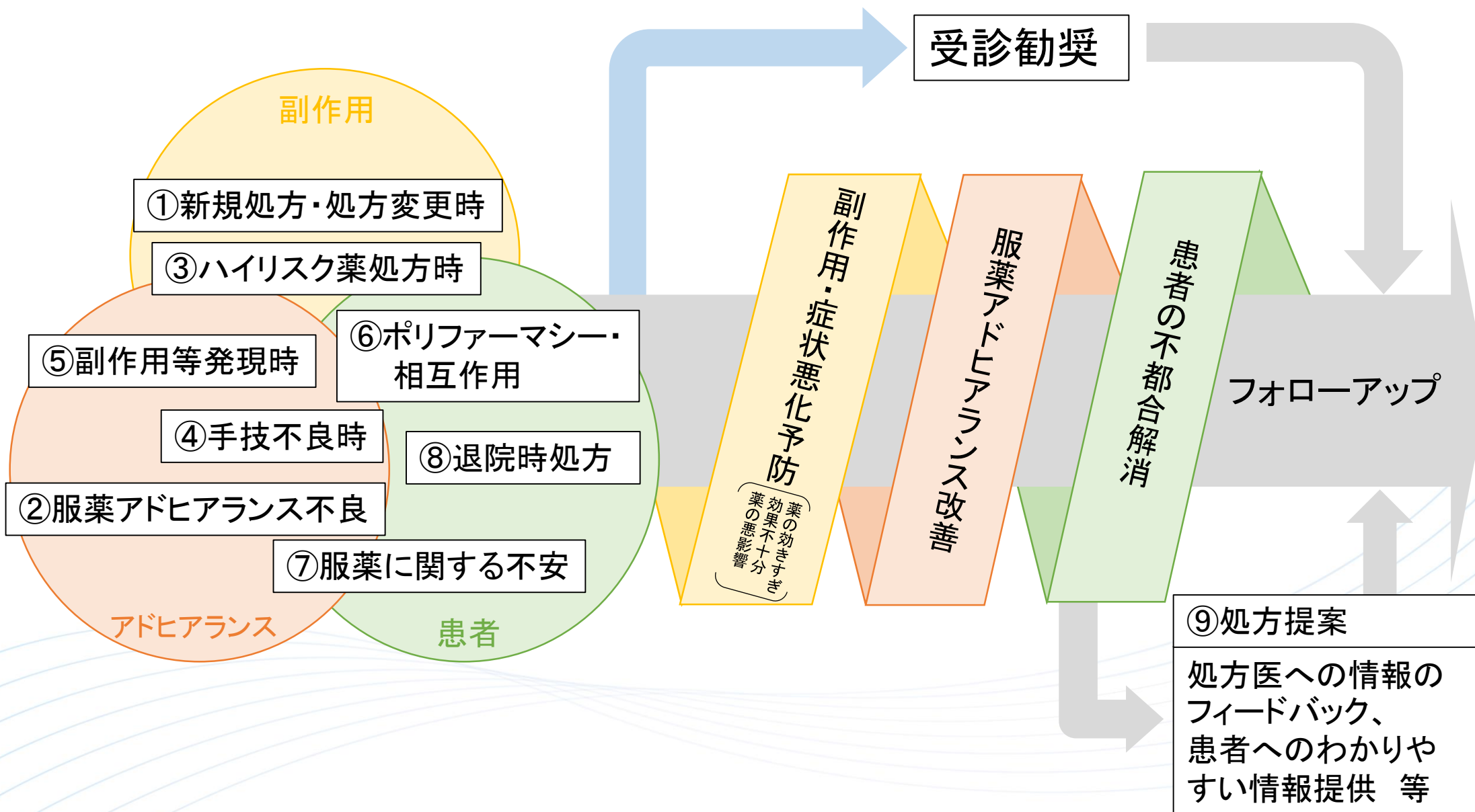
トレーシングレポート未提出のうち3件

- ①訪問薬剤管理指導報告書をケアマネージャー、医師へ提出した
- ②病院薬剤部に抗がん剤副作用、症状、服薬状況、疼痛管理の方針について情報共有した
- ③電話で報告した

フォローアップ効果が得られた事例の「見出し」で整理

- ①新規処方・処方変更時(増量・減量・中止)
- ②服薬アドヒアランス不良(自己判断で服用中止、残薬多数、認知症、自己判断で調節等)
- ③ハイリスク薬処方時(がん化学療法、麻薬(疼痛管理)、その他ハイリスク薬)
- ④手技不良時(自己注射、吸入薬、坐薬、浣腸、点眼剤の溶解困難等)
- ⑤副作用等発現時(低血糖、ふらつき、下痢、低血圧、口内炎、手足症候群、嘔気、便秘、発熱、胃酸過多、遅発性ジスキネジア等)
- ⑥ポリファーマシー、相互作用(サプリメント含む)
- ⑦服薬に関する不安(副作用)
- ⑧退院時処方(薬薬連携)
- ⑨処方提案(インスリン減量、止瀉薬、整腸薬追加、剤形変更、味覚異常に亜鉛製剤、オピオイド増量、副作用発現により減量等)

フォローアップによって見込まれる効果



アカデミアからのアプローチ

②「経済・財政再生アクション・プログラム2016」で記載された、医療の質を評価するためのKPI等の関連状況等について調査実施

☒

かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査案

ご回答にあたって。

- ◎ ご回答いただいた結果は統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。調査結果は報告書としてとりまとめますが、ご回答者や薬局・店舗名が特定される形で公表することはありません。
- ◎ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲むか、あるいは、具体的な数値や用語等をお書きください。数値を記入する設問で、該当なしの場合は「○（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。
- ◎ 特に断りのない限り、令和3年●月1日現在の状況についてご回答ください。
- ◎ 指定された回答期間の実績のご回答が難しい場合は、回答可能な直近の期間に置き換えてお書きください。

I 貴薬局の概要についてお伺いします。

問1 貴局の経営主体をお選びください。(○は1つ)	01 法人	02 個人
問2 同一経営主体(法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む)による・薬局店舗数(貴局も含めた店舗数)をご記入ください。	店舗	
問3 貴局の営業形態として該当するものをお選びください。(○は1つ)	01 薬局のみ	
	02 薬局とドラッグストア等店舗販売業の併設	
問4 貴局の立地状況をご記入ください(○は1つ)	01 診療所前	
	02 診療所の敷地内	
	03 大病院(400床以上)の前	
	04 大病院(400床以上)の敷地内	
	05 中小病院(400床未満)の前	
	06 中小病院(400床未満)の敷地内	
	07 医療モール内	
	08 面分業(01~07以外)	

➤ 主要な薬剤師KPIの選定をし、そのKPIについて、現在、薬局薬剤師へアンケート調査実施中

③服薬フォローアップ効果の測定

研究の目的 小児に坐薬が処方された保護者への薬局薬剤師によるフォローアップの効果測定

対象者 小児(0~7歳の未就学児)に初めて坐薬を使用する保護者(もしくは2回目以上だが薬剤師から見て坐薬の使用に不安を抱いている保護者)(母親、父親、祖父母等)

フォローアップ対象薬

フォローアップ対象薬	一般名	商品名例
解熱鎮痛坐薬	イブプロフェン	ユニブロン坐剤
	ジクロフェナクナトリウム	ボルタレンサボ、ジクロフェナクナトリウム坐剤、アデフロニックスボ、ベギータ坐剤、ボンフェナック坐剤
	アセトアミノフェン	アンヒバ、アルビニー、カロナール
熱性けいれん発作改善薬	ジアゼパム	ダイアップ坐剤
	フェノバルビタール	ルビアル、ワコビタール

薬剤師による小児用医薬品のフォローアップについてのアンケート

薬局でアンケート調査のご協力を依頼した方にご回答をお願いしています。アンケートへのご協力は自由意志によります。回答したくない質問は無理に回答する必要はありませんし、いつでも回答をやめることができます。また、それによってあなたが不利益を被ることはありません。

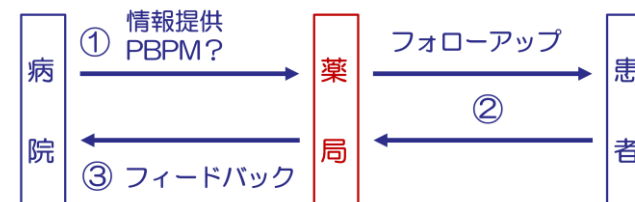
*必須

1. 薬局の薬剤師から薬についてかかってきた電話などについてのアンケートにご協力いただけますか。*

- アンケートに協力する → 質問2へ
- アンケートに協力しない → アンケート終了

➤ 小児の保護者を対象とした服薬フォローアップ効果測定を、大学における倫理審査委員会の承認を受け、現在調査実施中

④薬薬連携の検証



➤ フォローアップ実施等の質の高い薬学的管理における病院と薬局連携の合理化について調査。

海外調査

⑤ 質の高い薬学的管理・評価指標の検討

➤ 質の高い薬学的管理と評価指標の検討を進め、海外の動き等も踏まえ検討を実施。

➤ イギリスの<NICE Guideline> Medicines adherence: involving patients in decisions about prescribed medicines and supporting adherence Clinical guideline [CG76] について現在翻訳中。日本での活用を検討中。

まとめ

- フォローアップの必要性は、「患者個々の特性」×「罹患している疾病の特性」×「使用医薬品の特性」に影響するため、千差万別であり、引き続き、その多様な内容の収集・整理が必要。
- 収集・整理とともに、来年度、継続的なフォローアップを行うことが効果的な事例に関しての考え方(薬剤の種類、患者の状況、その他の要件)のまとめにつなげていく予定。
- 個別のフォローアップについては、その内容をとりまとめてレビューし、患者や医療関係者フィードバックしていくことも必要。
- また、フォローアップの効果や地域貢献等のエビデンスの見える化について、アカデミアとの協働も検討していくことも必要。
- 海外の情報等も参考にして、フォローアップの海外でのアドヒアランス、副作用、事例報告、ガイダンスを取り入れて発信していくことも検討中。